
2014 年度 映画英語教育学会 (ATEM) 西日本支部 第 12 回大会

日時：平成 26 年 11 月 8 日 (土)
10:00~17:35

会場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

【アクセス】 650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-5-7
JR 神戸駅から徒歩約 8 分 → 神戸情報文化ビル 3 階

参加無料

シンポジウムテーマ

『Invictus 負けざる者たち』

Invictus 徹底活用法

制作年：2009 年

配給：ワーナーブラザーズ

制作国：アメリカ合衆国

監督：クリント・イーストウッド

主演：モーガン・フリーマン マット・ディモン

上映時間：133 分

反アパルトヘイト運動のかどで国家反逆罪に問われ、27 年間に及ぶ獄中生活を経たのちに南アフリカ共和国の大統領となったネルソン・マンデラ氏 (1999 年没) の不屈の精神を描いた映画です。この映画に関連して、オーラルコミュニケーション、スポーツ英語、異文化理解の視点から 3 人のパネリストにそれぞれ活用のヒントになるお話を語っていただきます。



© Warner Bros.

The Association for Teaching English through Movies

大会プログラム

10:00—12:15 映画『インビクタス 負けざる者たち』上映（兵教ホール）

12:00—13:00 受付（兵教ホール前）

12:15—12:25 開会の辞・支部総会（兵教ホール）

司会：井村 誠（ATEM 西日本支部事務局長・副支部長・大阪工業大学）

挨拶：藤枝 善之（ATEM 西日本支部長・京都外国語大学・短期大学）

研究発表

[第1室] 講義室4

司会：小野 隆啓（ATEM 西日本支部運営委員・京都外国語大学）

12:30—13:00 1. 「映画に見る法助動詞と準法助動詞との共起」 衛藤 圭一（帝塚山大学・非）
（休憩）

13:05—13:35 2. 「アメリカ映画が描く認知症患者、介護者、女性たち—“isolated,” “alienated”
and “invisible”」 藤倉 なおこ（京都外国語大学）
（休憩）

13:40—14:10 3. 「『シックス・センス』に見る分析的コミュニケーションの展開」
北本 晃治（帝塚山大学）

[第2室] 講義室5

司会：井村 誠（ATEM 西日本支部事務局長・副支部長）

12:30—13:00 1. 「教員によるビデオ教材制作の取り組み」 吉浦 潤次（大阪電気通信大学・非）
（休憩）

13:05—13:35 2. 「『Toy Story 3』の英語字幕「音」が見えたら？」賀治 一市（Ichi 映語 House）
（休憩）

司会：William Figoni (Kinki University)

13:40—14:10 3. Melodrama in The English Patient Michael Herke (Setsunan University)
（休憩）

14:15—14:45 4. “SkypeRead: using movie read-throughs to develop cross-border communication
and teamworking skills” Graham Jones (Ten Sentences)

賛助会員発表

[第1室] 講義室4

司会：松田 早恵（ATEM 西日本支部 大会実行委員長・摂南大学）

14:15—14:50 お薦めビジュアル英語教材

1. 「新刊テキスト『映画で味わう食文化』ほか」小川 洋一郎（株式会社朝日出版社）
2. 「EnglishCentral—動画で学ぶオンライン教材」山元 龍（EnglishCentral／株式会社成美堂）
3. 「Working in Japan / World English」中嶋 綾子（センゲージラーニング株式会社）
4. 「DVD 教材 Top Notch TV」上村 武司（ピアソン・ジャパン株式会社）

<休憩>

シンポジウム

[兵教ホール]

司会：横山 仁視 (ATEM 西日本支部広報委員長・副支部長・京都女子大学)

15:00-16:30 テーマ：映画『インビクタス 負けざる者たち』徹底活用法
(パネリスト)

1. 近藤 暁子 (兵庫教育大学) <オーラルコミュニケーションの視点から>
「異文化理解教育を意識したオーラルコミュニケーション授業の提案—『インビクタス 負けざる者たち』を使って—」
2. Julian Wayne (大阪体育大学) <スポーツ英語の視点から>
「Teaching English to Student Athletes」
3. 浅野 英一 (摂南大学) <異文化理解の視点から>
「エンジニアの視点から見たアフリカの “I can do it.” が持つ意味」

<休憩>

特別講演

[兵教ホール]

司会：藤枝 善之 (ATEM 西日本支部長)

16:40-17:30 『インヴィクタス』—その音と言葉をめぐって 里井 久輝 (龍谷大学)

17:30-17:35 閉会の辞

司会：井村 誠 (ATEM 西日本支部事務局長・副支部長)

挨拶：横山 仁視 (ATEM 西日本支部広報委員長・副支部長)

18:00-19:30 交流会

司会：松田 早恵 (ATEM 西日本支部大会実行委員長)

研究発表概要

[第1室] 講義室4

「映画に見る法助動詞と準法助動詞との共起」

衛藤 圭一 (帝塚山大学・非)

法助動詞と準法助動詞の中には意味的に同等と見なされるものがある。たとえば Palmer(1990)によると、法助動詞 must と準法助動詞 have to は「義務」の意味を表す点でほぼ同義であるが、先行研究においてこのような語句の共起関係が扱われることは、発表者の知る限りほぼ皆無である。しかしながら、実際の言語使用においては、以下に示すようにほぼ同義とされる法助動詞と準法助動詞の共起表現が観察されることがある。

(1) I don't think I should have to keep doing things for you. [24 シーズン 6 (2005)]

(2) He can't be allowed to make one more wish. [ネバーエンディング・ストーリー 第2章 (1989)]

本発表では、映画における should have to と can be allowed to の共起表現を取り上げ、なぜほぼ同義とされる語句が共起するのか、また、このような共起表現はどういった文脈や状況で使用されるのかについて意味論および語用論の立場から考察することにした。

「アメリカ映画が描く認知症患者、介護者、女性たち—“isolated,” “alienated” and “invisible”」

藤倉 なおこ (京都外国語大学)

アメリカではベビー・ブーマーが高齢に達し、認知症患者数は増加の一途である。患者と介護家族が直面している状況は、日本とさほど変わらない。日本映画は1973年公開の『恍惚の人』に始まり、認知症の患者と患者をとりまく人々の姿を描いたさまざまな作品を世に送り出してきた。一方、アメリカ映画では主に2000年以降に認知症の患者とその家族をテーマにした作品が撮られるようになった。その例としては、2000年の『電話で抱きしめて』をはじめ、『きみに読む物語』(2004)、『マイ・ライフ・マイ・ファミリー』(2007)、『やさしい嘘と贈り物』(2008)などがあげられる。認知症の患者、介護者ともに女性の割合が高いのだが、こうした苦難を強いられた女性たちの現実が、これら映画に十分描写されているとは言い難い。本発表では、アメリカ映画の認知症患者とその家族の描き方を考察したい。

「『シックス・センス』に見る分析的コミュニケーションの展開」

北本 晃治 (帝塚山大学)

M・ナイト・シャマラン監督作品の『シックス・センス』は、ホラー映画の色調を帯びながら、その内実は、小児精神科医マルコムとその患者コール、マルコムとその妻アンナ、コールとその母リンとの、3組のそれぞれ質の異なった深い愛情関係によって紡がれた感動物語である。これら3組のコミュニケーションに共通するのは、外見上の意識的な関係性に制御不能な無意識的要素が侵入し、結果的に両者の関係性が阻害されている点にある。ラカンの精神分析理論では、私たちの意識的なコミュニケーションの反作用として、そこに干渉してくる無意識的作用が問題とされ、この映画の中で展開されている要素を読み解く上で、大変興味深い視点を提供している。本発表では、特に分析的状況で生じてくるコミュニケーション作用に対する知見と示唆を多く含む、ラカン理論「シェーマL」を用いて、これら3組のコミュニケーションの特徴について考察することで、この映画が結果的に表象している分析的コミュニケーションの本質について描出する。

【第2室】 講義室5

「教員によるビデオ教材制作の取り組み」

吉浦 潤次 (大阪電気通信大学・非)

一般の映画からは離れるが、文法項目を中心にした短いテレビドラマを高校教員チームとともに制作した。目的は、教員が自分たちで映像教材制作の体験をすることであった。また一般に販売されている映像教材は極めて良質のものであるが、現場教員の手作り教材は、生徒たちにとっては、身近で新鮮であり、ややもすると退屈になりがちな文法学習が生き生きとしてくると考えたからである。第一回目として、話法を文法のターゲットとして、恋愛をからめたストーリーにして制作した。多忙な校務の中、1学期の期末考査期間を利用しての内容の討議、教員一人がその討議を受けて2学期の中間考査に英語の台本を完成、ネイティブ・チェックを受けてから、2学期末考査期間から1月の末まで撮影を行った。編集作業の終了は2014年の2月。映像教材作りのモデルになればと考える。

「『トイ・ストーリー3』の英語字幕「音」が見えたら？」

賀治 一市 (Ichi 映語 House)

「ナチュラルな英語会話の習得を」をコンセプトにしました。文字から会話を学ぶことが主流の中、「英語字幕の音」の活用方法を考え発音記号(IPA)の使用を提案します。PPを利用した発音記号による「字幕セリフ音の可視化」です。具体的な例を『トイ・ストーリー3』(2010)を使って発表します。おもちゃの

心を描いた人情味？あるストーリーから話し手の意思、感情を表すのに必要な「会話のリズム」を嫌というほど教えてもらえます。リズムがあるから「英語」英語字幕の音（せりふ）を分析していくと日常の英語の会話の合理性が見えてきて英語の会話を裸にしたような感覚になります。このようなことは対 native では出来ない、「字幕セリフ音の可視化」ならではありません。聞き取りが困難な英語のせりふ、「映画英語のトリビアの積み重ね」と思って楽しみながらできる教材であるべしと思っています。授業として実英会話を扱うのは大変難しいのですがこの方法ですと指導者側が手間を惜しまなければ、簡単に実戦の、いや native の会話を習得できます。

Melodrama in The English Patient

Michael Herke (Setsunan University)

Melodrama is a stand-alone movie genre that also influences a wide variety of non-melodramatic films. Melodrama is characterized by excessive emotions, pathos, non-classical narrative structure, and clear, black and white moral poles. Moral conflict is often the theme of melodramas, particularly the oppression of the individual in society and the resulting strain. This presentation will look at the background and characteristics of melodrama and relate them to four scenes from the multiple Academy Award-winning 1996 movie *The English Patient*, a film that has several melodramatic features including a plot dominated by secrets, unexpected plot twists, a male lead with impaired masculinity, the transgressive female, both of whom cannot live up to the expectations placed on them by a bourgeois society. Melodrama releases the resulting unreconcilable tensions not through dialogue, but by what one critic describes as, “transcendent, wordless commentary, giving abstract emotion spectacular form.” It is hope that presentation participants will be able to apply these perspectives on melodrama in their own teaching situations.

“SkypeRead: using movie read-throughs to develop cross-border communication and teamworking skills”

Graham Jones (Ten Sentences)

SkypeRead is an experimental, global project that brings non-native English-speakers together, via Skype, to do read-throughs of movie scripts. The objective is to improve cross-border communication and teamworking skills. Since 2013 we have undertaken studies using five movies, with participants from more than 20 countries.

Our latest study is called SkypeRead:Europa. With support from Start Motion Pictures, an independent film-production company in New York, we are doing read-throughs of "Europa Report" 『エウロパ』, a documentary-style movie about an international mission to search for evidence of life on Europa, one of the moons of Jupiter.

How exactly do movie read-throughs help to develop language, communication and teamworking skills? I will discuss this question using two ideas from neuroELT, a new field that explores the links between neuroscience and English-language teaching.

Why "Europa Report"? There are three key elements that make this an ideal movie for an international read-through!

What results do we actually achieve? I will present initial findings from our SkypeRead:Europa study. Our first group of participants - who came from Japan, Vietnam, the Czech Republic, Spain and Mexico - blasted off to Europa a few weeks ago...

シンポジウム発表概要

テーマ：「映画『インビクタス 負けざる者たち』 徹底活用法」

【兵教ホール】

＜オーラルコミュニケーションの視点から＞

「異文化理解教育を意識したオーラルコミュニケーション授業の提案 —『インビクタス 負けざる者たち』を使って—」

近藤 暁子（兵庫教育大学）

『インビクタス 負けざる者たち』には、外国語学習には欠くことのできない異文化理解力を育てるための様々なトピックが多く含まれている。本発表では、この映画で描かれている平和、人権（人種差別）、歌、スポーツ、リーダーシップ、そして国際語としての英語等を取りあげながら、学生の人としての成長につながる異文化理解教育を意識した英語のオーラルコミュニケーション力を育てる授業を具体的な活動例（リスニング、発音、ディスカッション）とともに紹介する。

＜スポーツ英語の視点から＞

Julian Wayne (Osaka University of Health and Sciences)

Teaching English to Student Athletes

The past few decades have seen an increase in the variety of methods used by Japanese universities to assess applicants. In addition to traditional academic testing, routes such as “Admissions Office” entrance and various forms of entrance by “special recommendation” are now available. Although this has given universities greater freedom to focus on the potential of candidates in a specialized area, it has also led to an increase in the number of university students who encounter difficulties in their studies with regard to general education.

Drawing largely on my experience as both a part-time and full-time lecturer at the Osaka University of Health and Sport Sciences, I will be looking at some of the issues faced in providing English instruction to student athletes. While focusing mainly on pedagogical issues, including the use of video in the classroom, my presentation will also include a description of my university as well as an overview of the environment that Japanese universities are now experiencing.

My presentation should be of interest not only to those engaged in English education but to anyone providing general education to students in a specialized environment.

＜異文化理解の視点から＞

浅野 英一（摂南大学）

「エンジニアの視点から見たアフリカの “I can do it.” が持つ意味」

国際協力機構（JICA）からアフリカ・ケニアにある国立ジョモ・ケニアッタ農工大学の土木工学科に派遣され、7年間教鞭に立った。サブサハラ・アフリカは、ヨーロッパ諸国に植民地化され、独立後も宗主国の文化と社会制度が残っている。彼らの歴史・文化・教育・民族性は、日本と大きく違う。エンジニアの仕事に重要な、PDCA(Plan,Do,Action,Check)について誠実な国民性を持つ日本人が持つ“I can do it.”と、おおらかな大陸型国民性のアフリカ人が持つ“I can do it.”の意味とイメージはかなり異なる。アフリカ人と仕事をするとき、この違いを良く理解しておかないと不信感が蓄積して物事が前に進まなくなる。もう一つ、アフリカ人の口癖は“No Problem!”である。本来の「問題なし」という意味で受け取ってはならない。アフリカ人が“No Problem!”と言ったときは、特に要注意となることが多い。アフリカの多くの国は、「ひと・もの・かね」が慢性的に不足しているが、それが日常茶飯事であることから、物事がうまく行かなくて当然であり、それに加え、アフリカ人は日本人と比べ、非常にプライドが高く“No Problem!”なのである。

特別講演発表概要

[300 教室]

『インヴィクタス』—その音と言葉をめぐって

里井 久輝 (龍谷大学)

ネルソン・マンデラは昨年末にその驚嘆すべき生涯を終えました。彼のスピーチは、心に響く名言の宝庫として知られ、その言葉には、映画の中で何度も引用されるウィリアム・アーネスト・ヘンリーの詩『Invictus』そのままの力強さと、敵をも包容する寛容の精神とが、通奏低音のように流れているように思えます。

本講演では、「ネルソン・マンデラ」「南アフリカ」をキーワードに、映画『インヴィクタス』の音と言葉をめぐり話題をいくつか取り上げます。

全体を大きく二つに分け、前半では主として言葉—南アフリカの英語—について、その特徴を音声面から考察します。私達がモデルとする英語発音との比較を通じて、英語学習者の発音のあり方についても御一緒に考えたいと思います。後半では、スティーヴィー・ワンダーがマンデラに捧げたとされる『I just called to say I love you』を取り上げ、英語圏の文化背景にふれながら、歌を通じた英語教育の可能性を探ってみたいと思います。

講演者プロフィール

専門は音声学、言語学、英語教育。学生時代にシェークスピア劇に接し、英語の音楽的な響きに感銘を受け、音声学を志す。趣味は音楽鑑賞。子供の頃から、特にクラシック音楽、ジャズ、ポップスに親しんできた。NHK Eテレ3か月トピック英会話『歌って発音マスター!〜魅惑のスタンダードジャズ編〜』(2011年9月~12月放送)講師。

会場校へのアクセス

兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-5-7 (Tel: 078-361-5023)

■JR 神戸駅から徒歩約 8 分 → 神戸情報文化ビル 3 階

地図



アクセス

電車

- JR大阪駅 → JR神戸駅 約23分(新快速)
- JR姫路駅 → JR神戸駅 約35分(新快速)
- 新神戸駅 → 市営地下鉄三宮駅 → 徒歩 → JR三ノ宮駅 → JR神戸駅 → 徒歩 約8分
- 市営地下鉄ハーバーランド駅 → 徒歩 約8分
- 阪急・阪神高速神戸駅 → 徒歩 約13分

車

- 大阪方面から
阪神高速「京橋出口」下車 国道2号線を西方向へ約2km
- 姫路・岡山・徳島方面から
阪神高速「柳原出口」下車 国道2号線を東方向へ約1km

これまでの ATEM 西日本支部大会シンポジウムテーマ

【支部大会】

2002年9月14日	映画英語教育学会関西支部設立決起大会開催（於：京都外国語大学）
2003年9月14日	映画英語教育学会関西支部 第1回大会開催（於：京都外国語大学） 「怪物映画に学ぶドラキュラ vs フランケンシュタイン vs スパイダーマン」
2004年6月26日	映画英語教育学会関西支部 第2回大会開催（於：京都外国語大学） 「"Working Girl" 徹底活用法」
2005年9月18日	映画英語教育学会関西支部 第3回大会開催（於：京都女子大学） 「"DAVE" 徹底活用法」
2006年10月21日	映画英語教育学会関西支部 第4回大会開催（於：大阪工業大学） 「"I am Sam" 徹底活用法」
2007年10月20日	映画英語教育学会関西支部 第5回大会開催（於：摂南大学） 「"The Devil Wears Prada" 徹底活用法」
2008年10月18日	映画英語教育学会関西支部 第6回大会開催（於：京都ノートルダム女子大学） 「"Anne of Green Gables" 徹底活用法」
2009年9月26日	映画英語教育学会関西支部 第7回大会開催（於：帝塚山大学） 「"LITTLE MISS SUNSHINE" 徹底活用法」
2010年9月25日	映画英語教育学会関西支部 第8回大会開催（於：近畿大学） 「"SHANE" 徹底活用法」
2011年10月8日	映画英語教育学会関西支部 第9回大会開催（於：京都女子大学） 「"Twelve Angry Men" 徹底活用法」
2012年11月25日	映画英語教育学会関西支部 第10回大会開催（於：京都外国語大学） 「The King's Speech 徹底活用法」
2013年11月23日	映画英語教育学会関西支部 第11回大会開催（於：広島国際大学） 「Gung Ho 徹底活用法」

【映画英語学ワークショップ】

2009年5月9日	映画英文法ワークショップ 第1回大会開催（於：京都外国語大学） 「英語の時制表現に関する一考察」
2010年5月8日	映画英文法ワークショップ 第2回大会開催（於：京都外国語大学） 「認知言語学で読み解く映画の英語 —中・高・大の授業の活性化をめざして—」
2011年5月14日	映画英語学ワークショップ 第3回大会開催（於：京都外国語大学） 「語用論で読み解く映画の英語」
2013年6月1日	映画英語学ワークショップ 第4回大会開催（於：京都外国語大学） 「音声で読み解く映画の英語」
2014年6月21日	映画英語学ワークショップ 第5回大会開催（於：京都外国語大学） 「統語論で読み解く映画の英語」

※第3回大会よりワークショップ名を変更

お知らせ

【大会参加費について】

会員・非会員とも大会参加費は無料です。
どなたでも自由に参加できます。ご来場をお待ちしています。

【交流会参加費について】

参加費は大会受付にてお支払いください。一般会員は4,500円（各種アルコール飲み放題付）または4,000円（ソフトドリンク・ビール飲み放題付）、学生は支部より1,000円を補助します。
会員諸氏との交流および発表者との意見交換の場として是非ご参加ください。

（会場）ブラジリアーノ 〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町1-6-1 モザイク3F
（Tel: 078-360-2996）

新会員申込は本部HP（<http://www.atem.org/>）から

電話・FAX またはE-mail でお申込みください。

申込先： 映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12 アルク高田馬場4F

株式会社 広真アド内

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

ATEM Nishinohon Chapter

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会（ATEM）西日本支部

事務局：大阪工業大学

井村 誠 研究室内

m-imura@ip.oit.ac.jp